

「実践事例集Vol.13」(2016年4月発行)で  
紹介している事例を中心に抜粋しています。

(公益財団法人 ソニー教育財団)

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育 保育実践事例サイト  
<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>

実践事例集

<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/practice/>

2015年度 ソニー幼児教育支援プログラム

「科学する心」を育てる ～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

## 「つなぐ」

～様々な体験を通して、好奇心の芽・思いやりの心を育む～



南陽市立赤湯幼稚園

(前略)

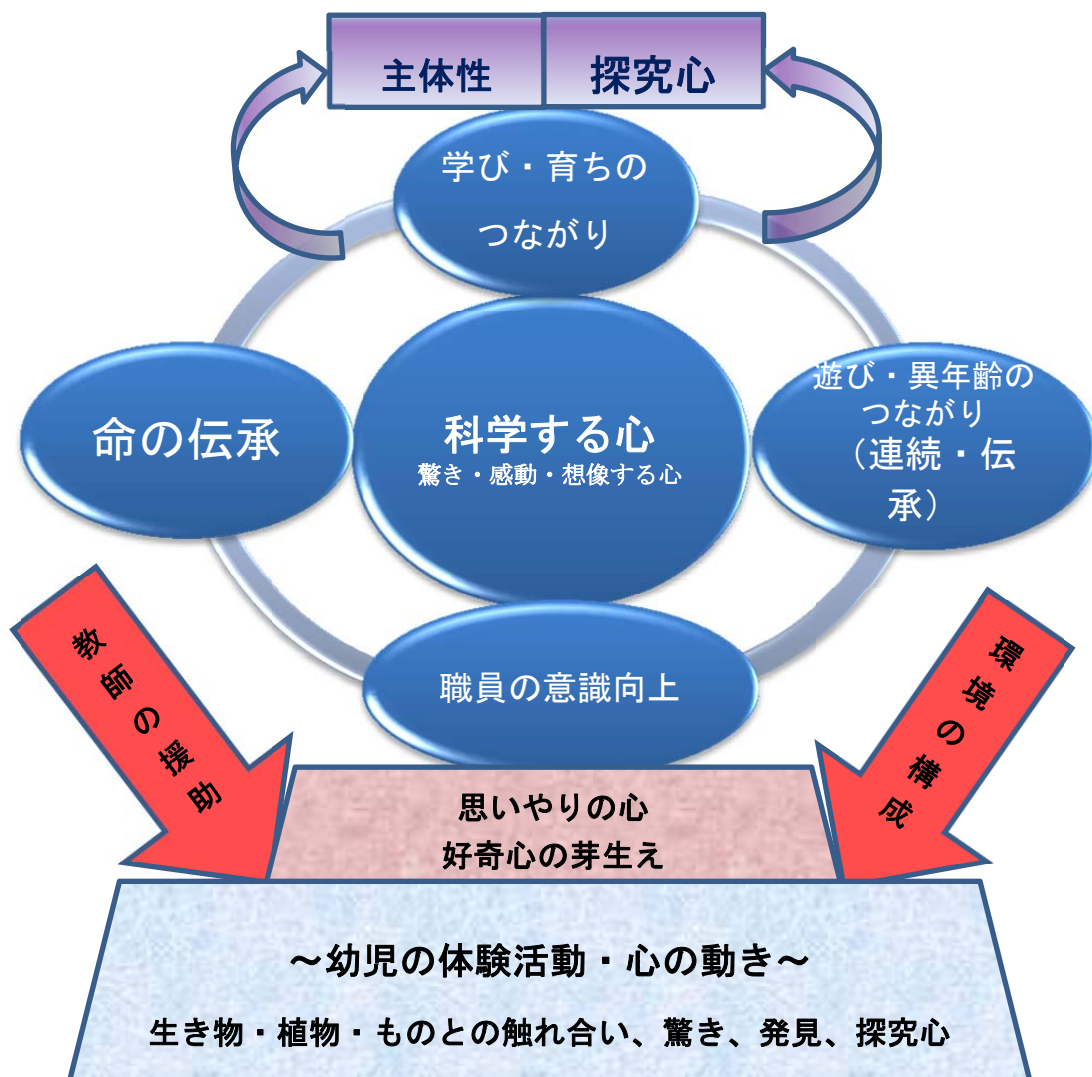
# 平成27年度の取り組み

## 1 研究の方法

- ① 子ども達が主体的に自然、もの、できごととかかわる体験を通して生まれる、好奇心や思いやりの心の芽生えについて考えながら記録し、心の変容を見取る（省察・改善・実践）。
- ② 子ども達の好奇心や興味・関心に教師がこたえていく環境の構成や援助のしかたについて考える。
- ③ 様々な視点からのつながりを考え、（命、科学する心、思いやりの心、遊び、異年齢保育、保護者、幼保小連携、地域）育ちと学びへとつなげていく。

以上のような視点を持ち、研究に取り組んだ。

### ◆研究の構想◆ ～心動かす質のある体験を通して深まる学び～



※教師が子どもの姿をどのように見取り、環境の構成や援助を行うか。どのように心の動きに寄り添うかが、気持ちを育てていくポイントと考えた。

## 2 実践の内容

### ① ばばばあちゃん大作戦！！・・・好奇心の心を育む・・・

実践時期平成27年7月～ 対象年齢4歳児

ある日、『すいかのたね』の絵本の読み聞かせをした。

～ばばばあちゃんがまいたすいかの種は、ネコやイヌ、うさぎやきつね達に掘り起こされ、怒ってあっという間に芽を出し、ツルは家の周りやばばばあちゃんの家の中にも伸び、たくさんすいかができる！庭にも、ばばばあちゃんのベットにも、うさぎやきつねのおうちにもすいかはゴロゴロ・・・。

読み聞かせが終わると、子ども達から

「すいかの種まいてみたいね！」という声。「まいてみた～い！！」絵本の世界にどっぷり入り込み、わくわくいっぱい表情で。「やってみる？」と担任。「うん！！」と答える子ども達。

ゆり組の、“ばばばあちゃん大作戦！！”の始まり！！

教師「スイカの種はどうする？」

子「家から持ってくる！僕、もうスイカ食べたよ！」

子「黄色いスイカ食べた！先生、黄色いスイカ、食べたことある？」

教師「あるけど、今年はまだ食べてないんだよな～。」

子「スイカの種って、白い種もあるんだよね！」

子「僕、種飲んだことあるー！」

教師「えー！！じゃあ、おへそからスイカ出てきたりして～！」

子「ぎやははは！！」

子「ちがうよ、うんこになるんだよー！」 ～スイカの種の話はどんどん膨らむ。～

教師「スイカの種、みんなどうする？先生、ないよ。」

子「家から持ってくる？」

子「わかった！給食のデザートのスィカの種は？」


子「いいね～！！」

教師「じゃ、スイカが出たら、ばばばあちゃん大作戦決行ね！」





子「楽しみだね～♪」「早く、スイカ出ないかな～！」

絵本の読み聞かせから想像を膨らませ、自分たちも絵本の世界に入り込み楽しめた。教師は、この絵本の読み聞かせがきっかけとなり、スイカの種をまいてみたい！という子ども達からの声が出ることを期待していた。ちょうど家庭でもスイカを食べ始めている子が多く、種の形や色にも気づき、「飲んでしまった種」についても想像を膨らませ、みんなで楽しんだ。読み聞かせの活動から、「やってみよう！」というきっかけ作りにつなげることができた。

教師は、子どもたちの「スイカの種をまいてみたい」という気持ちを大切に、土などの材料を準備、作戦が決行できるよう環境を作る。一人ひとり、クラスみんなが大切にできるよう、まいた容器には名前を書いてみることにする。

期日	◎子どもの姿	○教師の思い ☆環境構成 ◎援助
7・1 (水)	<p>・「やったー！先生、今日スイカだ！」 「先生、作戦できるね！」 給食の献立表を見てきた子ども達、スイカが出ることを喜んで教えてくれる。</p> <p>・スイカの種をみんなで集める。</p> <p>・水に入れた種を見て発見！「先生、種、浮いているのと沈んでいるのがあるよ！」 「どれどれ！！見せて！」 集まって頭を寄せ合い眺める。 「ほんとだ！！」</p> <p>・「沈んでいるのは重いんじゃない？」 「石ころとかは沈むもんね！」 「浮いているのは軽いんじゃない？」</p> <p>「浮いているのがいい！！」 「え～、でも、沈んでいる方が中がいっぱいでおいしいスイカになるんじゃない？」 「そっか～・・・じゃあ、重い方がいい！」 「先生は？」</p> <div data-bbox="459 1357 858 1473" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">       僕から水やるから、 待っててね！順番ね。     </div> 	<p>○保育室に土、ペットボトル（半分に切ったもの）を準備する。</p> <p>・「よし、今日はモリモリ給食食べて、作戦決行！！」</p> <p>◎期待を持たせる声かけをして食べる意欲にもつなげる。</p> <p>☆みんなが食べ終わるまで種を水に入れておいた。</p> <p>○すごい発見だ！！</p> <p>◎「なんで浮いているのと沈んでいるのがあるんだろうね。」と投げかける。 子どもたちの考えを、自分たちの言葉で伝えてもらいたい。</p> <p>・「じゃあ、みんなはどっちの種をまきたい？」</p> <p>○すごい考察力！子ども達の発想に感心する。</p> <p>・「じゃ、先生は浮いているのでいいよ。芽が出るか比べてみっぺね！」</p> <p>☆違う種をまくことで、違いがあるのか、関心を持たせる。</p> <p>☆チームを決めて種をまいた。 まいたペットボトルの容器に名前を書いて貼る。</p> <p>○自分たちがまいた種、という意識を持たせることで、水やりや観察の世話を積極的に行い、興味関心の深まりにつながるのでは、と考えた。</p>
7・2 (火)	<p>・霧吹きやじょうろで水やりをする子ども達。 「早く芽、出るといいね！」 「掘ってみたら出るんじゃないね(^o^)」 期待をしながら世話をする。</p>	<p>☆大作戦への意欲を盛り上げるため、ばばあちゃんの絵を貼ってみた。</p>



	<p>名前があるので、世話をする責任もうまれた。</p>	 <p>☆担任も水やり。大切にする姿を示す。 ○内心ドキドキ……。ちゃんと芽が出ますように……</p>
<p>7・7 (火)</p>	<p>・「スイカの芽、出てるよ〜！」 ・「うわ〜！ほんとだ！大成功だね〜♪」 芽が出たことでさらに世話が楽しくなった。</p> 	<p>○あ〜、良かった〜！ 芽が出てくれた！！ ◎水やりや声をかけてくれている子の姿を認めていく。 ☆クラス便りを発行。子ども達の取り組む様子や、スイカの生長について発信し関心を持ってもらえるようにする。</p>
<p>7・10 (金)</p>	<p>・「スイカになる！！」 「ゆり組、スイカだらけになる？」</p> <p>・「小さいから無理！」「きつくなる。」 ・「雨とかお日様の栄養で大きくなる！！」 子ども達の考えを言葉で伝える。</p>  <p>まだまだ細くて頼りない芽。けれど、子どもたちの“夢”は大きく膨らんでいま</p>	<p>☆園庭脇の空き地を耕し、畑を作り、地植えの準備をする。 ・「スイカの芽、どんどん大きくなってよ。このまま大きくなったら、どうなると思う？」 ○聞き方を変えてみる。 ・「この入れ物の中でスイカは大きくなるかな？」子ども達の答えから、畑への地植えを提案。栄養となる日差しや水、自然環境の中で生長することに気付かせる。</p> <p>手にはスイカの芽。お当番がじょうろに水を入れ「水係」。大切な芽をお引越し！</p> 
<p>☆種の違いを発見した子ども達。芽を出すのが早かったのは沈んだ種だった。その後どちらも芽を出す結果となった。芽を出さない種もあったので、どちらも芽を出すことがわかったようだ。</p>		





7・29  
(水)

- ・もうすぐ夏休み。  
みんなでスイカを見に行く。
- ・「元気で大きくなってね！」
- ・「ちゃんとスイカになってね！」  
「でも、泥棒にとられない？」  
大切な小さなスイカが心配。
- ・「うん！おねがいね！」



- ☆他のクラスの子も達や保護者の関心を高めるためにも、畑に看板を作る。  
降園後、見てくださる保護者がさらに増えた。
- ・「もうすぐ夏休みだから見れないね。どうする？」と尋ねてみる。
- ・「みんながお休みの間、先生が守っておくから、いい？」



- 生長しているけど、まいた時期を考えるとどうなんだろう。今後の天候にも左右される。小さくてもいいから、スイカができないかな。

おおきいスイカになってね！



8・3～



- 夏休み中も観察をする。  
黄色い花が咲き、小さなスイカができた！！  
休み明けの子ども達の反応が楽しみ♪





<p>8・17 (月) 2学期</p>	<p>・雨降りは傘をさしてスイカの観察♪ 「赤ちゃんスイカできてるね！かわいい。」</p> 	<p>○保護者とスイカの生長を観察してくれる子が増えてうれしい！</p>  <div data-bbox="1276 212 1476 504" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; color: blue;"> <p>お母さん、ほら見て！赤ちゃんスイカあるんだよ！</p> </div>
-----------------------------	---	--

## 保護者への発信 ～園と家庭をつなげる～

保育の様子を保護者へ発信。ゆり組の“ばばあちゃん大作戦”を伝え、関心を持っていただくきっかけに。また、発信したことで家庭での話題作りにもつながり保育への関心を高めていけると考えている。



The image shows two hand-drawn newsletters and a large letter. The newsletters on the left are titled 'くれよん' (Crayons) and 'ばばあちゃん大作戦' (Grandma's Great Operation). The large letter on the right is titled '速報 赤ちゃんスイカの出来が!!' (Special Report: The Birth of Baby Watermelon!!) and 'ばばあちゃん大作戦' (Grandma's Great Operation). The letter is dated August 18th and is written from the perspective of the children to their parents. It describes the process of growing watermelons, including watering, weeding, and the excitement of seeing the fruit start to grow. The children mention that they have been watering the plants every day and that the leaves are starting to turn yellow. They also mention that they have been weeding the plants and that the watermelons are starting to grow. The letter is written in a simple, childlike style with many drawings and colorful text.

登園時に保護者の手を引きスイカの生長の様子を見に行く子ども達の姿が増えた。家庭でスイカの種をまいた子もいた。「もやしてみたいにひよろひよろになって失敗しました。」「水やりをちゃんとしなかったので枯れてしまいました。」など、母親からも話をお聞きすることができた。また、スイカの栽培について調べてみた、という保護者もいらっしやった。子ども達のやってみてほしい！という好奇心の芽生えが、家庭へもつながった。子ども達の「見てほしい」「やってみてほしい」という気持ちに寄り添ってくださった保護者の姿も、子ども達の意欲につながる、大きな力となっている。

7月半ばに、年長児が畑で収穫した（苗から栽培）スイカをみんなでごちそうになった。子ども達はとても嬉しかった。「ゆり組のスイカができたならスイカ屋さんやりたいね！」と夢は膨らんでいる。年長児の活動が刺激となり、子ども達の心の中に年長児への“憧れ”や“自分達もやってみてほしい”という気持ちがあらわれた。遊びの伝承、学び合いの姿につながった。ゆり組の活動が年少児や年長児へも刺激になっているとも考えている。

## 【実践の考察】

子ども達が大好きな絵本の読み聞かせから、想像の世界を育むことにつなげることができた。目には見えないものをイメージし、子ども達が自由に想像を膨らませ、考え、工夫し、やってみようとする姿は好奇心の芽生えであり、「科学する心」や「生きる力」にもつながるのではないかと考える。

種から芽が出る様子が絵本と同じことや、ツルがぐんぐん伸びスイカの実ができた喜びを味わえたことは、今後の学びの意欲の姿へつながったのではないだろうか。お盆明けの日照時間や低温、自然環境について考える機会にもなった。スイカはまだ生長中。未熟でも、スイカの匂いを感じ、実の色や種を見ることで、五感も刺激し、この活動への喜びを感じさせたい。

教師がものとかかわろうとする積極的な姿は大切な環境のひとつと考え、今後も示していきたい。子ども達のわくわくドキドキの心をくすぐる体験活動から、好奇心の芽生えにつなげる環境の構成や援助をこれからも考え保育していきたい。

( 中 略 )

生き生きと遊ぶ**赤湯幼稚園**の子どもたち

**あそびあい かんがえあう ゆたかなころ**

昨年本プログラムに挑戦したことが、私自身の保育に臨む姿勢や子どもの遊びを見取る明確な視点を持つきっかけとなった。今年度に向け考えた計画はまだ実践できていないこともあるが、常に私の頭の中にあり、何とか実践したいと模索する力となっている。私の「科学する心の芽生え」となり、物事を見る感性の広がりにつながった。その力は、保育にも生かされていることを感じている。教師がどのような心で感じ、子どもの姿を見取るか。その見取りからの環境の構成や援助の方法によって、育まれていく姿に違いがあるのではないだろうか。改めて教師の役割の大きさ、感性の大切さを痛感している。自主的に遊び込む姿は「生きる力」の基礎となる。子ども達の“すごい！！”“不思議！？”という小さな気づきを見逃さず、共に考え、楽しみ、意欲的に取り組み喜び合えたら・・・それは「科学する心の芽生え」となり、心を動かす体験を通した学びにつながると信じている。

本園は恵まれた自然環境にあり、日々の遊びや生活の中で身のまわりにある当たり前の自然に触れ、存分に遊びを楽しんでいる。

震災から4年半。当たり前の自然に触れ、当たり前に生活できることに感謝する心を忘れず、人や自然を大切にすることを持ち続けていきたい。

大きく変わりつつある自然環境や社会情勢の中、目の前にいる子ども達の幸せな未来につながっていくよう、私たち教師は自己研鑽を重ねながら、未来を拓く保育につなげていきたい。

研究代表 ・ 執筆者名 須貝 智美